

科目名	生徒指導論特講	担当者	シバヤマ ヒデキ 柴山 英樹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本科目では、論理的・批判的思考力を身に付けることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 今日の生徒指導やキャリア教育における課題を把握できるようになるために、歴史的・社会的背景を理解し、論理的・批判的思考力を身に付けながら、今後の生活指導やキャリア教育のあり方を示すことができる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導やキャリア教育の歴史的・社会的背景を理解することができる。 課題に関する参考図書や文献資料を収集しながら、批判的に分析ができる。 自ら問いを立てながら考察し、自分の考えを論理的に説明することができる。 実践者として、これからの生活指導やキャリア教育のあり方を示すことができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1つのレポート作成にあたり、基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 レポートの推敲過程において、Manaba-Folioの全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。</p> <p>【学修方略（LS）】 まず、基本教材を熟読し、課題を把握することが大切である。次に、関連する図書や文献を読み、課題に関する理解を深めてほしい。とくに、基本教材1で論じられている生活指導の立場と生徒指導の立場の特徴や違いを踏まえて検討してほしい。基本教材2は、移行プロセスの現状と課題を把握し、著者が主張するキャリア教育とは何かを理解してほしい。</p>		
スケジュール	<p>基本教材1のレポート課題は、9月課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>基本教材2のレポート課題は、1月課題提出締切日までに提出すること。</p> <p>なお、課題提出前に草稿を提出し、担当者のコメントに基づき、修正しながら最終稿を作成する。</p> <p>基本教材1の課題1は6月中、課題2は8月中に草稿を提出すること。</p> <p>基本教材2の課題1は11月中、課題2は12月中に草稿を提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	テキストの理解度、着眼点、論理展開、適切な引用など。 形式面・内容面で不備がないこと。
	平常評価	20%	レポートの添削やアドバイスへの対応など。
履修者への要望	<p>課題について理解を深めて、適切に論述すること。そのためにも、積極的に参考図書や関連する事項について文献調査を行い、基本教材の立場や特徴を踏まえつつ、考察を深めること。レポートは、章立てをして、正確に引用しながら、最後に参考文献も明記すること。枚数は最低でも4枚以上。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志 教材名： 『新しい時代の生活指導』（有斐閣，2014年） ISBN:978-4-641-22034-8 1,800円＋税</p> <p>本教材は，子どもの生活現実から出発し，子どもの自主性を重んじ，子どもの社会的な自立を支援する営みとされる生活指導について論じたものである。また，子どもを理解するとはどういうことであるのか，子どもたちをいじめや暴力行為へと駆り立てる生活現実の問題についても踏み込み，生活指導のあり方を模索している。</p>
参考図書	<p>折出健二編『生活指導—生き方についての生徒指導・進路指導とともに改訂版』（学文社，2014年） ISBN：978-4-7620-2469-6 1,900円＋税 全生研常任委員会企画 竹内常一・折出健二編『生活指導とは何か』（高文研，2015年） ISBN: 978-487498-576-2 2,300円＋税</p>
履修上のポイント	<p>本書を理解するには，生活指導の理念と歴史を理解しつつ，これからの生活指導のあり方を検討していく必要がある。とくに，「生活指導」と「生徒指導」は明確に異なる概念であり，これらの違いを踏まえて考察する必要がある。本課題が「生活指導」について論じるものであることに留意してください。なお，参考図書『生活指導—生き方についての生徒指導・進路指導とともに改訂版』や『生活指導とは何か』は，生活指導に関する入門的な手引き書であり，関連する文献紹介も参考になる。</p>
レポート課題 1	<p>第Ⅰ部を読み，生活指導の原理や歴史を整理しつつ，今日の生活指導の課題について述べなさい。 留意点：今日における「生徒指導」論の問題点を批判的に考察すること。</p>
レポート課題 2	<p>第Ⅱ部を読み，子どもたちの生活現実をどのように捉えるかを整理しつつ，本書における生活指導実践の事例を取り上げ，指導のあり方に関する自分の意見を述べなさい。 留意点：本書における「子ども理解」「生きづらさ」「いじめ」「暴力」「特別なニーズ」に関する捉え方の特徴を理解すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 児美川孝一郎 教材名： 『権利としてのキャリア教育』（明石書店，2007年）ISBN:978-4-75-032559-0 1,800円＋税</p> <p>まず，子どもと若者の「学校から仕事への移行」「大人への移行」過程の困難な状況を踏まえ，なぜキャリア教育が求められているのかを論じられている。その上で，今日におけるキャリア教育を検討しながら，子どもと若者に保障されるべき権利としてのキャリア教育を展望したものである。</p>
参考図書	<p>乾彰夫『若者が働きはじめるとき—仕事，仲間，そして社会』（日本図書センター，2012年） ISBN：978-4-284-30448-1 1,500円＋税 本田由紀『教育の職業的意義—若者，学校，職業をつなぐ』（筑摩書房，2009年） ISBN：978-4-480-06523-0 740円＋税 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』（ちくまプリマー新書，2013） ISBN：978-4480688996 780円＋税</p>
履修上のポイント	<p>本書を理解するには，学校から仕事への移行過程の変容と若者を取り巻く現状を把握しておく必要がある。参考図書『若者が働きはじめるとき—仕事，仲間，そして社会』は，若者の働きづらい現実を論じたものであり，関連する文献紹介も参考になる。また，参考図書『教育の職業的意義—若者，学校，職業をつなぐ』では，キャリア教育の問題点を指摘しつつ，「教育の職業的意義」を高めるための提案がなされている。また，基本教材と同じ筆者がキャリア教育の問題点について論じ，自らが進路を描く方法を論じたものとして，『キャリア教育のウソ』がある。</p>
レポート課題 1	<p>第一章と第二章を読み，学校から仕事へ移行過程の現状と課題について考察した上で，なぜキャリア教育が求められているのかを論述し，それに対する自分の意見を述べなさい。 留意点：移行過程の変容を検討しつつ，若者がどのような困難に直面しているのかを考察すること</p>
レポート課題 2	<p>第三章から第五章までを読み，著者が提案するキャリア教育について論述し，それに対する自分の意見を述べなさい。 留意点：今日のキャリア教育政策の問題点を批判的に考察すること。</p>